ジュリー・アン・デロスレイエスさんインタビュー

東アジア、東南アジアにおける エネルギー転換を理解する

――ご研究についてお聞かせください。

鉱業分野、エネルギー分野における環境変化のプロセスを研究しています。博士課程では、世界の金採掘業の金融化について調査し、これがいかに鉱物採掘における新たな地理的不均衡を生み出し、中央と周辺の関係を変化させてきたかを明らかにしました。そこでは、グローバル規模で事業を展開する世界最大の金採掘企業の採掘活動に対する金融関係者の影響と、その社会的な意味を解明しようと努めました。[*1]

現在は京都大学東南アジア地域研究研究所（CSEAS）の博士研究員、そして特定助教として、エネルギー転換をテーマに研究に取り組んでいます。特に、気候変動対策の一つであるCO2排出量削減のための石炭利用の段階的削減に向けて、フィリピンと東アジア、東南アジアで政治経済学的、政治生態学的な調査を行っています。

――研究の道に進むきっかけや、今のご研究に至った経緯について教えてください。

自然な成り行きだったように思います。私は大学院へ進む前に、まずアジア地域を専門とする研究機関で働きはじめました。対象地域はアジアですが、テーマは多岐にわたりました。安全保障、環境、産業政策、地域主義、そして特に金融分野です。当初はアジアにおける国際通貨基金（IMF）の役割を調べ、次に民間金融機関について調査を行いました。その中で、過去十数年の間に通貨危機、経済危機が頻発し、金融資本が社会生活に新たな局面をもたらしていることがわかってくると、このテーマをさらに掘り下げるために大学院へ進学することを決めました。

現在、金融と鉱業・エネルギー部門との接点に着目しながら、資本蓄積の枠組みが変化することで、企業経営や採掘・操業現場がどのように影響を受けるかを明らかにしようとしています。

研究の道に進んだことで、こうした関心を追究し、知識を広げる機会を得ることができました。また、現在私が取り組んでいる研究は、金融部門がグローバル経済だけでなく環境変化にも重要な役割を果たすことについて、よりよい理解に貢献できるかもしれません。気候危機が深刻化し、自然災害リスクに対して多くの地域は脆弱で、エネルギー転換に関しては未だ社会科学的研究の蓄積が浅いことを考えると、現在取り組んでいる研究は時宜に適ったものだと考えています。

――研究で出会った印象的なひと、もの、場所について、エピソードを教えてください。

チリ北部のアタカマ地域で、世界最大級と謳われる金採掘プロジェクトを調査しました。[*2] 当時、時価約三〇〇億ドルに相当する約一八〇〇万オンスの金が地下に眠っていると

チリ北部のアタカマ地域。カナダの鉱山会社が保有する収益性の高い金鉱山事業やプロジェクトが多数存在する

鉱山業界最大の集まりであるカナダ鉱業開発協会（PDAC）の年次大会に展示された四〇〇オンスの金塊（当時五〇万ドル相当）

路上の壁のグラフィティ。チリ・アタカマ州バジェナール市にて

COP26開催時、フィリピンのケソン市で行われた気候変動に関する正義を求める抗議集会でミニ壁画を運ぶフィリピンのジープニー（写真提供：JIMMY A. DOMINGO）

見られていました。一辺約三メートルの立方体の容量に相当する金を採取し、それをまた別の場所に埋める（保管庫に入れる）、そのような規模のプロジェクトが農村地帯を一変させてしまうことに深い憂慮を覚えました。このプロジェクトは最終的に地元の抵抗によって閉鎖に追い込まれましたが、地域の人々がそれを押しとどめることができたことは印象的で、大きな感銘を受けました。

――特に影響を受けた本や経験についてお聞かせください。

研究に役立ち、また最近はまっているのがウィリアム・クロノン『ネイチャーズ・メトロポリス（*Nature's Metropolis*）』、ジョヴァンニ・アリギ『北京のアダム・スミス――21世紀の諸系譜（*Adam Smith in Beijing*）』（邦訳は中山智香子監訳、山下範久解説、作品社、二〇一一年）、ティモシー・ミッチェル『カーボン・デモクラシー（*Carbon Democracy*）』、ジュリー・クリンガー『レアアース・フロンティア（*Rare Earth Frontiers*）』です。

特に影響を受けた本を一冊あげるとすれば、デヴィッド・ハーヴェイ『資本の限界（*Limits to Capital*）』（邦訳は『空間編成の経済理論――資本の限界』松石勝彦・水岡不二雄他訳、大明堂、一九八九年）でしょう。金融資本についてこれまでで最も深く掘り下げて説明されており、まさに魔法のような本です。たいへん読み応えがあり、博士課程の一年目に読んだときには内容がよく理解できませんでした。ハーヴェイ本人に教えを請うた際にも、彼の主張が現実に説得力を持ちうるのか半信半疑でした。博士課程の三年目にロンドンの金融街シティに出向し、近代企業の行動に価値法則がいかに強固に組み込まれているかを目の当たりにしてようやく、本書の素晴らしさを理解できるようになりました。現在も、（エネルギー投資やエネルギー供給などの）地理的に不均等な発展のダイナミクス、東南アジアの発展途上国やフィリピンの周辺地域に特有の意味を説明する際などに、たいへん役立っています。

――理想の研究者像を教えていただけますか。

理想の研究者は、知識を追求する強い意志と、社会をよりよくするために貢献するという倫理観を持っている人です。熱意と探究心があり、今の世の中の仕組みをよりよく理解したいという意欲がある人です。また、研究能力を向上させるために絶え間なく努力し、専門分野を超えて、他の分野やより広範な議論に参加できるよう、学際的・横断的な志向を持っている人です。

――研究の成果を論文や本にまとめるまでの苦労や工夫をお聞かせください。

私は地域横断的かつ質的・量的分析を組み合わせる研究を行っており、通常はデータの収集と整理にかなりの時間を要しています。複数の方法を用いた実証分析結果が首尾一貫していて、理論的な発展を助けることが重要と考えています。執筆は厄介で、書いたり消したりの繰り返しですが、悪いことばかりでもありません。執筆を続ける中で得た一つのヒントは、自分の中で筆者と編集者とを切り離すことです。もちろん、言うは易く行うは難しですが、文章の一字一句を気にするのではなく、大まかな考えを書き留めるのに役立っています。

私たちは往々にして、自分が自分にとって最悪の批評家になってしまっているものです。

ですから私はいつも、完璧なんてありえないと自分に言い聞かせ、目をつぶって投稿するようにしています☺

――調査や執筆のおとも、マストギア、なくてはならないものについて教えてください。

マストギアはたくさんあります。調査や執筆の中で面倒で時間のかかる部分（音声起稿や文献参照など）の負担を減らそうと、いくつものソフトを使用しています。英語のインタビューの文字起こしにはOtterがとても便利です。話者のアクセントに関係なく、ほぼ完璧に、インタビューに要した時間と同じくらいの時間でテキストを生成してくれます。日本語を翻訳する際にはDeeplが一番です。参考文献の検索ではEndnoteが欠かせません。学術論文を読むときはQuadernoを使っています。メールから解放され、読むことだけに集中できます。

――若者におすすめの本についてコメントをいただけますか。

若い研究者のみなさんには、特定の一冊を勧めるというより、自分の専門分野や研究地域以外の本を読むように勧めたいです。アカデミズムは専門性を重視するあまり、学際的、地域横断的な解決を必要とする問題への対応に限界があるように思います。また、フィリピンなど歴史修正主義が盛んに唱えられるようになっている国もありますし、誤った主張や偽情報に対抗するためにも、幅広く本を読み、研究者が自ら学ぶことが大切です。

――これから研究者になろうとする人にひとことお願いします。

研究はとてもやりがいのある仕事ですが、同時に生活のすべてを巻き込むものでもあります。勤務時間がフレキシブルなため、一日中ずっと働いているということも少なくありません。また研究の道を歩み始めて定職を得ようとする時期は、家庭をもとうとする時期とも重なりがちで、特に困難な状況に陥ることがあります。だからこそ、研究を続けるためには、学者であることに情熱を持ち、サポートしてくれる仲間を見つけることが大切です。競争の激しい職種ですから、自分にも周りの人にも優しくすることを忘れないでください。

――これからの野望をお聞かせください。

エネルギー転換は比較的新しい研究分野であり、現実と私たちの理解にはいまだ大きな隔たりがあります。実際、現在研究を通じて明らかになっていることの多くは欧米の一部の先進国の経験に基づいており、この問題を検討する上で重要な東アジアや東南アジア地域では研究の蓄積が多くありません。私は、アジアにおける動態を研究することで、このギャップの解消に貢献したいと考えています。また、気候変動やエネルギー政策に情報を提供するだけでなく、今後の研究の発展にも寄与できればと考えています。

（二〇二二年三月一四日）

注

＊1 de los Reyes, JA (2017). "Mining shareholder value: Institutional shareholders, transnational corporations and the geography of gold mining." *Geoforum* 84: 251-264. https://doi.org/10.1016/j.geoforum.2016.12.004

＊2 de los Reyes, JA (2022). "Re-making Pascua Lama: Corporate financialisation and the production of extractive space," *The Journal of Peasant Studies* 49 (4): 817-838. https://doi.org/10.1080/03066150.2022.2069014

ジュリー・アン・デロスレイエス（Julie Ann de los Rayes）京都大学東南アジア地域研究研究所特定助教は、英国マンチェスター大学にて地理学の博士号を取得。現在は、東アジア、東南アジアにおけるエネルギー転換について、特に石炭への投資（および投資の中止）、新興の水素サプライチェーンに焦点を当てて研究を行っている。世界の金鉱業における株主価値の最大化と鉱業投資の地理的要因についての研究も行ってきた。EUのマリー・S・キュリー奨学金、エラスムス・ムンドゥス奨学金、日本学術振興会科学研究費補助金の受給者でもある。